

## 編集後記

著者	浅原 正幸
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	6
ページ	348-348
発行年	2021
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1328/00003508/">http://id.nii.ac.jp/1328/00003508/</a>

## 編集後記

今回のワークショップでは、2件の招待講演、5件の口頭発表（音声言語スペシャルセッション）、27件のポスター発表がありました。発表申込をしてくださった方々に感謝いたします。8月まで口頭発表だけは国語研から配信ができるように検討しておりましたが、残念ながら、昨年度に引き続き完全オンライン開催になってしまいました。

招待講演・口頭発表ともに音声言語をテーマとした先生方に依頼しました。招待講演では東京都立大学の小野順貴先生・宇都宮大学の森大毅先生より、音声言語コーパスを構築する上で必要な技術の最先端のお話を伺うことができました。口頭発表では、前川喜久雄先生のリアルタイムMRI日本語調音運動データベースのご研究の現況について、お話を伺うことができました。いずれも興味深いご発表でした。

前回と異なり、今回はポスター発表の方々に zoom のブレイクアウトルームを開放し、プレゼンテーションをお願いしましたが、活発な議論が繰り広げられたように思いました。

参加申込者数で198人がありました。学生の参加者が多く、博士課程31人・修士課程22人・学部生以下8人の参加者がいました。海外からも20人の参加者がいました。どうもありがとうございました。

また、優秀発表賞選考対象の発表が7件ありました。投票の結果、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校の俵匠見氏の発表「現代短歌における字余りとリズムの考察」が受賞しました。おめでとうございます。

言語資源活用ワークショップは、今回が最終回となります。6年間どうもありがとうございました。

国立国語研究所  
コーパス開発センター  
浅原正幸